

世界 46 カ国・地域で 40 万人が音楽を学ぶスズキ・メソッド

—「子供たちの音が、世界をひとつに。」—

「第 16 回スズキ・メソッド世界大会」開催 第一報

開催地:スズキ・メソッド発祥の地、松本

2013 年 3 月 27 日(水)~31 日(日)

過去最高、世界各国・地域から 5,400 人が参加

スズキ・メソッド世界大会は、1975 年（昭和 50 年）に第 1 回が米国ハワイで開催されて以来、各国で開催され、今回で 16 回目となります。また日本での開催は 4 回目、1999 年 3 月の第 13 回以来 14 年ぶり、1975 年に始まって以来最高の参加者数で決定しております。

スズキ・メソッドは、日本のヴァイオリン教育の父とも言うべき、鈴木鎮一（1898~1998 年）によって生み出された音楽教育法です。“どの子どもにも能力がある”という信念に基づいた教育法は、日本をはじめ、世界の国々の教育に大きな影響を与え、多数の音楽家や多彩な人材を世に送り出してきました。現在、米国・欧州の他、世界 46 カ国・地域の教室で約 40 万人の子どもたちがスズキ・メソッドを学んでおり、日本では、約 2 万人の子どもたちが、全国各地の教室でヴァイオリン、チェロ、フルート、ピアノを学んでいます。

スズキ・メソッドの教育法は、音楽を通じて高い感性と能力を持った人間を育てる人材教育としての評価も高く、音楽家のみならず、医学、経済、法律、教育、棋界などさまざまなジャンルで、活躍する優秀な人材を数多く輩出しています。

第 16 回世界大会では「子供たちの音が、世界をひとつに。」をテーマに掲げ、世界各国から集まる子どもたちの力量を磨くレッスンプログラム、子どもたちの大合奏、世界の名だたる演奏家の演奏、OB・OGの演奏、各界の著名人によるシンポジウムなど、松本市民とともに音楽を楽しみ、心をひとつにする多様なプログラムが繰り広げられます。

記主 催：公益社団法人才能教育研究会 <http://www.suzukimethod.or.jp/>

名 誉 総 裁：高円宮憲仁親王妃久子殿下

開 催 日：2013 年 3 月 27 日(水)~3 月 31 日(日)

開 催 地：長野県松本市

会 場：キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館)・才能教育会館・まつもと市民芸術館・
松本市総合体育館・あがたの森文化会館・長野県松本勤労者福祉センター・松本市美術館・
松本秀峰中等教育学校・信州大学・松本第一高等学校・長野県松本美須ヶ丘高等学校 他

後 援：文部科学省、長野県、長野県教育委員会、松本市、松本市教育委員会 他

参 加 者：国内外生徒父母 約 4,600 人(含む 海外 1,300 人) 指導者 800 人

参加演奏家：OB・OGを含む世界で活躍する演奏家

ヴァイオリン:大谷康子、荻原尚子、竹澤恭子、渡辺玲子、ヴィオラ:川本嘉子

チェロ:堤 剛、宮田 大、フルート:宮前文明、ピアノ:田中正也、指揮:北原幸男 他各氏を予定

ホームページ <http://16thwc.suzukimethod.or.jp/>**【日本の音楽の聖地・松本を作ったスズキ・メソッド】**

サイトウ・キネン・フェスティバルが毎年開催され、今や、日本のクラシック音楽を代表する地となった松本ですが、その始まりは故鈴木鎮一がスズキ・メソッドの本拠を松本に構えたことに始まります。サイトウ・キネン・フェスティバル 20 周年記念スペシャル・コンサートにスズキ・メソッドの子どもたちがゲスト出演した際のリフレットに寄せられた小澤征爾氏の言葉には、「スズキ・メソッドが誕生し、音楽を愛する土壌があったからこそ 20 年前に突然やってきた私たちの音楽祭が、すんなりこの地に受け入れられたのではないのでしょうか…」とあります。また、スズキ・メソッドも 1983 年、89 年、99 年と過去 3 回松本で世界大会を開催してきました。

☆この件に関するお問い合わせ先☆

公益社団法人才能教育研究会 本部事務局 松本市深志 3-10-3 担当:勝野、細川
電話:0263-32-7171 FAX:0263-32-7451東京事務所 千代田区神田駿河台 2-3-16
駿河台スカイビル 3 階 担当:野村・高木
電話:03-3295-0270 FAX:03-3295-1448

オフィス/ 細矢康子 電話:090-8874-7193

sola@tbz.t-com.ne.jp

公益社団法人才能教育研究会 概要

名 称	公益社団法人才能教育研究会(文部科学省管掌) スズキ・メソード(スズキ・メソードは教育法)
設 立	1950年(昭和25年)10月25日 (創業 1946年)
本部所在地	長野県松本市深志3丁目10番3号 東京事務所:東京都千代田区神田駿河台2-3-16 駿河台スカイビル3階 東海事務所:愛知県名古屋市東区東桜1-10-3 則武ビル6階
会 長	中嶋 嶺雄(国際社会学者、公立大学法人国際教養大学理事長・学長)
生徒数	日本国内 約20,000人 (指導者数 約1,000人 保護者会員 約12,000人) 世界46カ国・地域 約40万人
海外ネットワーク	ISA(International Suzuki Association 国際スズキ協会) ASA(Asia Suzuki Association アジラスズキ協会) ESA(European Suzuki Association ヨーロッパスズキ協会) PPSA(Pan-Pacific Suzuki Association パンパシフィック協会) SAA(Suzuki Association of the Americas アメリカスズキ協会)
音楽コース種類	ヴァイオリン、チェロ、ピアノ、フルート、0~3歳児コース(国内)
教 室 数	全国約1500教室
特 徴	「母語教育法(どの子も自分の国の言葉は自然に話す事が出来るようになる)」 によって、繰り返し耳から覚え、育てる教育法。 乳幼児期によい環境におき、良い音楽を繰り返し聴かせ、高い感性と美しい心を 育み、集中力、忍耐力を養うという、音楽教育の域を超えた人間教育として注目 を集めている。 親と共に取り組む。
専 門 学 校	専門学校 国際スズキ・メソード音楽院(松本) 「指導者養成コース」「専門コース(プロ養成)」

鈴木鎮一と公益社団法人才能教育研究会（スズキ・メソード）について

鈴木鎮一（1898—1998）は、明治 31 年に生まれ、ヴァイオリンをドイツで、カール・クリングラーに学び、帰国後、演奏活動、帝国高等音楽院教授を勤める傍ら、江藤俊哉、豊田耕兒、小林武史・健次、有松洋子、鈴木秀太郎、諏訪根自子などの日本を代表するヴァイオリン演奏家を育てた経験を踏まえ、1946 年（昭和 21 年）長野県松本市に「松本音楽院」を設立、これが現、公益社団法人才能教育研究会（スズキ・メソード）の出発点となりました。1948 年（昭和 23 年）「才能教育研究会」と改称、1950 年（昭和 25 年）10 月には文部省(当時)から認可を受け「社団法人才能教育研究会」が発足しました。今年 2012 年 10 月より、公益社団法人才能教育研究会となりました。

鈴木鎮一は、子どもの能力は生まれつきではなく、育つ環境によって育まれるという、「母語の教育法：日本中の子供たちは素晴らしい日本語を自然に話すことができる」を発見し、どの子の能力も認め、落ちこぼれを作らず、母語を学ぶように音楽を学び、親子で楽しみながら学んでいく、という独特の教育法と教則本によって「幼児教育に対する新しい考え方と方法」をスズキ・メソードとして、ヴァイオリンを通じて実践しました。その結果、それまでの教育では成し得なかった大きな成果を挙げ、これにより才能教育運動が全国に広がっていくことになりました。

昭和 33 年にスズキ・メソードで学ぶ子どもたちの演奏フィルムがアメリカで紹介されると、その音色、演奏姿、芸術性の高さが全米に大きな衝撃と感動を与え、これがきっかけとなって鈴木鎮一のもとにはアメリカのみならず、世界中から数多くの指導者が訪れるようになり、スズキ・メソードは世界へと発信されて行きました。また、鈴木鎮一と「日本公文教育研究会」公文公氏（故人）が、教育への考え方の一致をみていたこと、南米のベネズエラで始められた教育法「エル・システム」(※)に、スズキ・メソードが取り入れられている事、などでも知られています。

こうして世界に認められたスズキ・メソードは、現在では世界 46 ヲ国・地域で約 40 万人の生徒が学ぶほか、大学の授業にも取り入れられるなど非常に高い評価を受けており、日本国内でも約 1,000 名の指導者のもと約 2 万人の生徒が学んでいます。

鈴木鎮一は、また、「美しい音」とともに「美しい心」を育むことを大切にし、音楽を通じて豊かな感性を育て心の美しい人間を育てることが、平和で豊かな世界を創るとの信念のもとに運動を続けました。その結果、スズキ・メソードは演奏家だけでなく、広く各分野で活躍する多くの人材を輩出することになり、単なる音楽教育を越えた人間教育としても大きな成果を出し続けています。

※エル・システム(El Sistema)は、ベネズエラで行われているクラシック音楽の教育制度。1975 年にホセ・アントニオ・アブレウ博士の呼びかけで始まった。無料で子供たちに楽器を与えて、基礎知識や演奏を教えることにより、健全な成長をはかる。多くの子どもが貧困層で、グスターボ・ドゥダメル(指揮者)はこの制度で学んだ。資金はベネズエラ政府や寄付によってまかなわれている。

出演、来日を予定しているゲスト

【コンサートに出演する主な演奏家たち】(ア行順)

大谷 康子 (日本) (ヴァイオリニスト、東京交響楽団ソロ・コンサートマスター)
荻原 尚子 (ドイツ) (ヴァイオリニスト、ケルン WDR 交響楽団コンサートマスター)
川本 嘉子 (日本) (ヴィオリスト)
北原 幸男 (指揮者、宮内庁式部職楽部指揮者、武蔵野音楽大学教授)
竹澤 恭子 (フランス) (ヴァイオリニスト)
田中 正也 (日本) (ピアニスト)
堤 剛 (日本) (チェリスト、桐朋学園大学学長、サントリーホール館長)
宮田 大 (日本) (チェリスト)
宮前 文明 (米国) (フルーティスト、医学博士)
渡辺 玲子 (米国) (ヴァイオリニスト) 他

【海外、日本でスズキ・メソッドを指導する演奏家&指導者】

(アルファベット表記はABC順、日本語はア行順)

Brian Lewis (米国) (ヴァイオリン)
Hidetaro Suzuki & Zeyda Ruga Suzuki (米国) (ヴァイオリン)
William Preusil (米国) (ヴィオラ)
William Starr (米国) (ヴァイオリン)
東 誠三 (日本) (ピアノ)
江澤 聖子 (日本) (ピアノ)
小林 健次 (日本) (ヴァイオリン)
佐藤 光 (フランス) (チェロ)
志田 とみ子 (ベルギー) (ヴァイオリン)
進藤 郁子 (日本) (ピアノ)
林 峰男 (スイス) (チェロ)
眞峯 紀一郎 (ドイツ) (ヴァイオリン) 他

第16回ススキ・メソード世界大会開催スケジュール

全体企画

時間	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
3月27日 (水)					歓迎イベント								
	登録												
					国内外指導者研究会				国内指導者懇親会				
3月28日 (木)			開会式 オープニング コンサート				シンポジウムⅠ 基調講演 早野龍五	シンポジウムⅡ 鈴木鎮一を語る				ゲストコンサート	
					グループレッスン 弦楽								
					ススキメソッド ピアノ科コンサート								
3月29日 (金)					シンポジウムⅢ 海外に広がった ススキメソッド		午後の コンサート				生徒による 協奏曲の夕べ		
	楽器別レッスン				グループレッスン 弦楽		分科会 (指導者対象)						
	レッスン見学						楽器別指導者 研究会						
	ピアノ科 グループレッスン ピアノ科 キッズ・プログラム				ピアノ科コンサート								
3月30日 (土)					シンポジウムⅣ 21世紀における ススキメソッド の歩むべき道		街角コンサート				第16回世界大会 記念オーケストラ コンサート		
	楽器別レッスン				グループレッスン 弦楽		午後の コンサート						
	レッスン見学						分科会 (指導者対象)						
	ピアノ科 グループレッスン ピアノ科 キッズ・プログラム				ピアノ科 コンサート								
3月31日 (日)					閉会式 お別れ コンサート								
	楽器別レッスン												
	レッスン見学 分科会(指導者対象)												
	ピアノ科 グループレッスン ピアノ科 キッズ・プログラム												

■スズキ・メソード世界大会 過去の開催状況

回数	年月	開催国（都市）	参加者数 （概数）	参加国数
第1回	1975年6月	アメリカ（ハワイ）	900人	3カ国
第2回	1977年6月	アメリカ（ハワイ）	650人	4カ国
第3回	1978年6月	アメリカ（サンフランシスコ）	1,000人	8カ国
第4回	1979年6月	旧西ドイツ（ミュンヘン）	700人	17カ国
第5回	1981年7月	アメリカ（マサチューセッツ）	1,200人	15カ国
第6回	1983年7月	日本（東京都、松本市）	1,600人	22カ国
第7回	1985年8月	カナダ（エドモントン）	1,700人	20カ国
第8回	1987年8月	旧西ドイツ（ベルリン）	3,000人	29カ国
第9回	1989年7月	日本（松本市）	1,200人	23カ国
第10回	1991年1月	オーストラリア（アデレード）	700人	11カ国
第11回	1993年8月	韓国（ソウル）	2,700人	18カ国
第12回	1995年7月	アイルランド（ダブリン）	2,000人	24カ国
第13回	1999年3月	日本（東京都、松本市）	4,000人	31カ国
第14回	2006年4月	イタリア（トリノ）	3,000人	27カ国
第15回	2009年4月	オーストラリア（メルボルン）	3,000人	16カ国

【写真】 前回 2009 年開催 第 15 回スズキ・メソード世界大会 オーストラリア



【スズキ・メソッドとエル・システマについて】

エル・システマ(EI Sistema) は、ベネズエラで行われているクラシック音楽の教育制度。1975年にホセ・アントニオ・アブレウ博士の呼びかけで始まりました。無料で子どもたちに楽器を与えて、基礎知識や演奏を教えることにより、健全な成長をはかります。多くの子どもは貧困層で、資金はベネズエラ政府や寄付によってまかなわれています。世界的指揮者のグスターボ・ドゥダメル氏はこの制度で学びました。

このエル・システマの基盤が確立されていくにあたっては、スズキ・メソッド、アメリカのウィリアム・スター氏とスズキ・メソッド創設者・故鈴木鎮一に師事したヴァイオリニスト小林武史氏による、ベネズエラ訪問とアブレウ博士との交流が大きく関与しています。スター氏はエル・システマ設立直前の、1971年と1973年にアメリカのテネシーの子どもたちと共にベネズエラを訪問、熱烈な歓迎を受けています。

以下は2008年3月22日、国際交流基金主催の国際会議での「音楽は青少年と社会をどう変えたか？」をテーマとしたトークセッション時のアブレウ博士の発言です。「1975年に創設したFESNOJIV(エル・システマ)について、どのような趣旨、意図で設立したのか」との質問への回答です。(記録訳文の抜粋)

■1975年に、プロジェクトを立ち上げることを決心しました。(中略)カルカッタのマザーテレサがしばしば言われていたことですが、貧困のなかで一番心が痛み悲しいことは、住居や食物が無いということよりも、社会の中で自分の存在が認められないということです。貧しい子どもは、芸術家になるための適切な境遇にさえアクセスできないと思いました。従って、戦略としては先ず少数の教師で、ベネズエラの中央にある県で児童・青少年のグループを教育し、その青少年たちが将来様々な県で他の青少年たちの教師となって教えるという方式をとる。そうすることにより短期間に全国をカバーすることが可能になります。(中略)これまでの33年間で二つの音楽教育ネットワークを築くことが出来ました。一つはユースオーケストラであり、もう一つは付属合唱団です。(中略)最新の統計では、このネットワークに国全体で26万5千人の青少年が参加しています。もちろん、これだけの規模に拡大するためには、教師を養成し、楽器を調達し、より効率的な音楽教育メソッドを開発するという多大な努力が必要でした。この制度の発展のために日本が多大な貢献をしたという点をここで表明したいと思います。交流基金からも三回にわたって幼児・青少年向けの楽器を寄贈していただきました。これらの楽器は特に貧困地域・地区に提供されました。また、長期にわたり、日本人の専門家のご支援もいただき、ベネズエラを訪問して青少年のみならず教師たちをも指導してくださいました。中でもベネズエラのために特に尽力していただき、ベネズエラとしては感謝しきれない専門家が小林武史先生です。特にヴァイオリン教育ではスズキ・メソッドを普及させ、ソルフェージュさえ学んだことのない青少年グループにも指導して頂きました。スズキ・メソッドがこれだけ普及したのは小林先生が蒔いた種の成果です。

【スズキ・メソードと公文教育研究会について】

スズキ・メソード創設者故鈴木鎮一と公文教育研究会会長、故公文公氏とが教育法に同じ思いを持ち、交流していた事を示す文献が残っています。

まず、1985年スズキ・メソード第31回グランドコンサートプログラムに寄せた、「子どもの可能性を信じて」と題した公文氏の文章です。(以下原文抜粋)

■「どの子ども育つ、育て方ひとつ」をモットーに、鈴木鎮一先生は音楽を通して子どもたちの可能性をひたすら追求し、輝やかな成果をあげておられます。(中略)これはひとえに、子どもの限りない可能性を信じ子どもの能力に即した指導を続けられた賜であると存じます。(中略)私どもも、「ひとりひとりの可能性を伸ばす」という目標をかかげ、個人別、学力別、しかも自主学習の方法で、各人の能力を最大限に伸ばす教育をつづけ、効果をあげております。(中略)このように、分野はちがっても、子どもの可能性を信じ、ひとりひとりの子どもを最大限に伸ばす教育によってこそ、健全で有能な人材が育てられるのだということを、私たちは確信いたしております。そして、子どもはこんなにすばらしい可能性をもっているのだという事実を、世の人びとにいっそう広く知らせるためにも、才能教育研究会がさらに発展されますことを心から願ってやみません。ともに民間の教育団体として、私どもも皆さま方と心を合わせ、つぎの時代をにう人材の育成に当たりたいと存じます。

つぎに、故鈴木鎮一が、1983年10月20日、公文教育研究会発行『公文式の二十五年 二十五年の歩みと展望』に寄稿した「能力を育てる運動の展開」と題した文章です。(以下 127 頁部分の抜粋)

■私はこれまで、“どの子ども育つ、育て方ひとつ”を信念に、子どもたちを立派に育てあげなければならぬという意識で、才能教育を実践してきました。どの子ども、普通に話のできるほどの子であるならば、みなそれぞれ優れた能力を発揮できる素質を持っています。その素質を『育つ条件』の中におけば、どのような事にも順応して、能力は立派に育っていくのです。そのために、子どもが生まれもった生命力を正しく認識し、可能性をひき出し、それをどこまでも伸ばしてやらなければなりません。それは公文式も全く同じであると私は思っています。(以下略)

スズキ・メソッドから巣立った多彩な人材

(ア行エ順 敬称略)

* 印は第16回世界大会のコンサート演奏者、※は指導者、☆はシンポジウム出席者。

	氏名	役割	職業
演奏家・音楽家			
	東 誠三	* ※	ピアニスト、東京藝術大学准教授、東京音楽大学非常勤講師、国際スズキ・メソッド音楽院教授
	井手上 康		ヴァイオリニスト、バーデン・バーデン・フィルハーモニー・第一コンサートマスター
	江口有香		ヴァイオリニスト、日本フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター
	江澤聖子	※	ピアニスト、国立音楽大学准教授
	大谷康子	*	ヴァイオリニスト、元東京シティフィルハーモニーコンサートマスター、東京交響楽団ソロ・コンサートマスター、東京音楽大学教授
	荻原尚子	*	ヴァイオリニスト、ケルンWDR交響楽団コンサートマスター、第16回スズキ・メソッド世界大会 記念オーケストラ コン서트マスター
	尾西秀勝		ピアニスト、作曲家、アルモニカ奏者、仙川アヴェニュー・ホール“ve quanto ho.....”館長
	川本嘉子	*	ヴァイオリニスト、東京藝術大学弦楽器科非常勤講師、水戸室内管弦楽団
	小林健次	※	ヴァイオリニスト、元オクラホマシティ交響楽団コンサートマスター、元東京都交響楽団ソロコンサートマスター、元桐朋学園大学教授
	竹澤恭子	* ※	ヴァイオリニスト
	館ゆかり	※	ヴァイオリニスト、国際スズキ・メソッド音楽院校長・ヴァイオリン科教授
	堤 剛	* ※	チェリスト、桐朋学園大学学長、サントリーホール館長
	豊田耕児	※	ヴァイオリニスト、元ベルリン放送交響楽団第一コンサートマスター、元ベルリン国立芸術大学ヴァイオリン科教授、前国際スズキ・メソッド音楽院校長、国際スズキ・メソッド音楽院ヴァイオリン科教授、(公社)才能教育研究会芸術監督
	葉加瀬太郎		ヴァイオリニスト、元クライズラー&カンパニー ヴァイオリニスト、音楽プロデューサー、作曲家
	林 峰男	※	チェリスト、元スイス・ローザヌ室内管弦楽団ソリスト、国際スズキ・メソッド音楽院教授
	久石 譲		作曲家、編曲家、指揮者
	広瀬悦子		ピアニスト
	松波恵子		チェリスト、元新日本フィルハーモニー交響楽団首席チェロ奏者、桐朋学園大学講師、東京音楽大学講師、愛知県立芸術大学講師
	眞峯紀一郎	※	ヴァイオリニスト、元ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団、元パイロイトフェスティバルオーケストラ、パッサ・コレギウム責任者、ベルリン カイザー・ヴィルヘルム記念教会パッサ合唱団理事
	三浦章広		ヴァイオリニスト、元新星日本交響楽団首席コンサートマスター、東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター
	水島愛子		ヴァイオリニスト、元バイエルン放送交響楽団
	渡辺玲子	* ※	ヴァイオリニスト、公立大学法人国際教養大学特任教授
多彩なOB・OG			
	伊勢英子		画家、絵本作家(チェロ)
	伊藤裕太		前日本ビクター株式会社代表取締役社長、株式会社フロントランナー取締役会長(ヴァイオリン)
	上野達弘		立教大学法学部教授(チェロ)
	黒河内健		EPSON Europe Electronics. GmbH 社長(ヴァイオリン)
	壁瀬有雅		醍醐寺執行長(醍醐派宗務総長)(チェロ)
	木村真一		弁護士、スズキ・メソッドOB・OG会会長(ヴァイオリン)
	小松澤恭子		テレビ東京政経担当デスク(ピアノ)
	佐藤康光		棋士(王将)(ヴァイオリン)
	清水不二雄		前新潟青陵大学学長、新潟青陵大学名誉教授、医師(ヴァイオリン)
	新海尚子		名古屋大学大学院国際開発研究課准教授(ピアノ)
	給田俊哉		元住友商事、元Eddie Bauer Japan(常務取締役)、元株式会社モンリーブ(フェイラーブランド) 監査役、元Stokke Japan 専務取締役、スズキ・メソッドOB・OG会副会長(ヴァイオリン)
	給田英哉		元丸紅常務取締役、元丸紅経済研究所会長、(公社)才能教育研究会常務理事(ヴァイオリン)
	中嶋嶺雄		国際社会学者、元東京外国語大学学長、東京外国語大学名誉教授、公立大学法人国際教養大学 理事長・学長、(公社)才能教育研究会会長(ヴァイオリン)
	長井鞠子		同時通訳者、サイマル・インターナショナル顧問(ヴァイオリン)
	則久英志		下掛宝生流能楽師(ヴァイオリン)
	早野龍五	☆	物理学者、東京大学大学院理学系研究科教授(ヴァイオリン)
	二木亮壽		元サンフランシスコCVB/サンフランシスコ国際空港 日本代表(ヴァイオリン)
	宮坂勝之		元長野県立こども病院院長、聖路加看護大学院教授(ヴァイオリン)
	八代真紀子		国連職員、国連環境計画(UNEP)勤務(ヴァイオリン)
	米原 徹		東レ㈱専任理事、先端融合研究所所長(ヴァイオリン)

季刊誌『Suzuki Method』～先輩こんにちば～のコーナー登場者およびOB・OG会名簿などより作成。

他にも多数のプロの演奏家・指導者、様々な分野で活躍している方が大勢います。ごく一部の方のみ記載させていただきました。